

令和元年度 健全育成協議会並びにふれあい活動のまとめ

1 健全育成協議会・準備運営委員会等について

本年度も5月を中心に7中学校区で、健全育成協議会が開催された。事前に準備会を開催し、本年度の活動方針やふれあい活動等について話し合いを行い協議会に臨んでいる地区も多い。協議会参加者は、どの地区も総代さん、学区市議会議員さんはじめ、青少年健全育成に関わる学区公職者のほとんどの方の出席をいただいている。地区によっては、祭り保存会、長寿会、消防団等の出席をいただき、学区の子どもたちの状況について把握していただいている地区もある。

協議会での話し合いの内容は、本年度の地区健全育成協議会の活動方針、委託料予算の審議に続いて、それぞれの地区の青少年の生活状況や危険箇所に関する情報交換、本年度のふれあい活動についてが中心となっている。多くの地域の大人たちが一堂に会して、青少年についての情報交換をすることは健全育成において大変意義深く、今後の継続した取り組みが期待される。

2 ふれあい活動について

本年度も5月12日(日)をスタートに市内44会場で地域ふれあい活動が開催され、1万3000人を越す市民が参加した。ここ数年中学生の参加率が高く、多くの会場で中学生が中心となって活躍する姿が見られる。ふれあい活動の準備会に中学生を参加させ、様々な意見を求めたり、開催準備のための仕事を任せたりする地区が多くなってきた。こうした地域の大人たちの配慮や期待が、中学生に自己有用感や地区への帰属意識を育み、健全育成に大きな効果がもたらされている。昨年度の猛暑をふまえ、本年度は夏季大会や球技指導会の日程が6月に変更されたこともあり、地域ふれあい活動の実施日の設定について頭を悩ましたことだろう。原則日曜日の部活動の練習は行わないという市内の中学校の申し合わせもあり、事前に開催日が明確になっていれば、今後も多くの中学生の参加が期待できる。

ふれあい活動の内容は、地区によってさまざまであるが、大別すると地域の公園等の草刈や掃除をする活動、避難訓練や防災教室、運動会など体育的活動、夏祭りや盆踊り、ものづくり体験等となっている。防災訓練等では、後半レクリエーション的内容も盛り込み、参加した子どもたちが十分楽しむことができるよう配慮されている地区がほとんどであった。

「ミニ集会」からスタートし、現在の「ふれあい活動」のような形に移り変わり始めて20年以上経つ。地域の重要な行事として位置づけ開催している地区も多い。これも総代を中心にふれあい活動の意義を十分認識し、開催に向けてのリーダーシップをとってしてくれるからこそである。青少年の健全育成を目的にこうしたふれあい活動が開催されている市は、他に聞かない。開催にむけて関係者には開催経費等、様々な負担をかけていると思うが、蒲郡市の特色の一つとして、今後も継続して開催されていくことを切に願う。